

東京都駐車場の指定管理者の管理運営に関する二次評価
(令和3年度実施分)

東京都日本橋駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始及び東京2020オリンピック・パラリンピック開催時に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(サリン)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、管理室窓口に遮蔽物や消毒液を設置し、利用者の安全・安心を確保した。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 定期制利用者向けの解約届出フォームを公社ホームページ上に新設し、利用者の利便性向上に寄与するとともに、都が推進する手続のオンライン化に貢献した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が3,578台(+2.1%)、時間貸利用台数が8,203台(+5.7%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全5項目中、4項目で評価が高かった。

東京都宝町駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	S
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始及び東京2020オリンピック・パラリンピック開催時に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(サリン)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、管理室窓口に遮蔽物や消毒液を設置し、利用者の安全・安心を確保した。 ・ 改修中の八重洲駐車場から定期契約車両の多くを受け入れるとともに、時間貸の車室数が限定される中、混雑時には職員が場内誘導を行い、効率的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 定期制利用者向けの解約届出フォームを公社ホームページ上に新設し、利用者の利便性向上に寄与するとともに、都が推進する手続のオンライン化に貢献した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が11,021台(+10.0%)、時間貸利用台数が14,667台(+17.7%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全5項目中、3項目で評価が高かった。

東京都新京橋駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	S
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始及び東京2020オリンピック・パラリンピック開催時に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(サリン)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、管理室窓口に遮蔽物や消毒液を設置し、利用者の安全・安心を確保した。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置(200V普通充電器を2台新設)、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 定期制利用者向けの解約届出フォームを公社ホームページ上に新設し、利用者の利便性向上に寄与するとともに、都が推進する手続のオンライン化に貢献した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が15,334台(+12.4%)、時間貸利用台数が15,463台(+15.9%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全5項目中、4項目で評価が高かった。

東京都東銀座駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	B
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始及び東京2020オリンピック・パラリンピック開催時に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(サリン)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、管理室窓口に遮蔽物や消毒液を設置し、利用者の安全・安心を確保した。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 定期制利用者向けの解約届出フォームを公社ホームページ上に新設し、利用者の利便性向上に寄与するとともに、都が推進する手続のオンライン化に貢献した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が6,659台(+6.1%)、時間貸利用台数が5,990台(+6.6%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全5項目中、1項目で評価が高かった。

東京都板橋四ツ又駐車場
 (公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	B
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、募集要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(サリン)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、管理室窓口に遮蔽物や消毒液を設置し、利用者の安全・安心を確保した。 ・ 天井からの漏水のため閉鎖中の車室がある中で、修繕により利用可能車室を確保するなど、継続的な工夫により効率的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の工事現場、公共施設、周辺企業等に案内チラシを配布し、駐車場利用の向上を図った。 ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両やパーク&ライドの受入れなど、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ クレジットカードや電子マネーに加え、新たにQRコード決済(窓口のみ)にも対応し、都が推進するキャッシュレス化に貢献した。 ・ 定期制利用者向けの解約届出フォームを公社ホームページ上に新設し、利用者の利便性向上に寄与するとともに、都が推進する手続のオンライン化に貢献した。 ・ 大規模改修工事に伴う定期契約の新規販売抑制により、前年度と比較して、総利用台数が3,278台(-5.2%)減少した。また、時間貸利用台数が554台(-1.5%)減少した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

グループ名	都市部の公園・東部グループ
指定管理者名	アメニス東部地区グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
1	猿江恩賜公園	B	<p>・グループ全体として、コロナ過で大型イベントの企画、開催は減ったものの、個人レベルで楽しめるイベント企画、おうち時間を充実させる情報の発信、提供を行った。今後、もっと企画段階から市民が参加できる取組を期待したい。</p> <p>・猿江恩賜公園では、千葉大学と「みどりの価値」について共同研究を開始。利用者の行動特性から、どのように公園が利用されているかを客観的に把握することが可能となり、利用者満足度の向上のための施策におけるベースを作ることができた。また、新たに発足したボランティア団体「和ぎの会」と連携し、コロナ禍において地域の子どもたちを笑顔にするためのイベントを多く企画・実施した。さらに、毛利小学校とのスクールパートナー事業は、まだ小さな区域ではあるが、コロナ禍にあっても今後への事業の発展が期待される。</p>	B
2	亀戸中央公園	B	<p>・亀戸中央公園では、公園の特徴の一つであるサザンカの名所について、中長期事業として復活に取り組んでいることは評価できる。今後、年度ごとにどのような計画により実現しようとするのか示されることを期待したい。</p>	B
3	尾久の原公園	A	<p>・尾久の原公園では、ボランティア団体が国交大臣賞表彰を受賞したことをきっかけとして、地域からの注目度が上がり、地元団体から地域活動の講師依頼を受けるなど公園での活動を外部に発信する機会が増えている。継続的な取組により地域との関りを深めている点は評価できる。また、地元荒川区環境課の協力のもと、親子向け自然観察会を実施して、これまで荒川区内で発見できなかった昆虫類を多数発見するなど、公園内の自然環境の良さを発信することができた。さらに、水系のダイオキシン環境調査の依頼に対して、迅速に測定を行い、ダイオキシン対策や維持管理の基礎データ作成に貢献した。</p>	A
4	東綾瀬公園	B	<p>・東綾瀬公園では、迷惑や危険な行為に対し、巡回等にて注意し、随時声掛け、告知看板の設置等適切な措置を取った。特にC地区の騒音に対する苦情については、苦情者への適切な対応や巡回や注意喚起看板の強化により迷惑行為を激減させることができた。</p> <p>・中川公園において、巨大作物に着目してその独自性を構築しようとする試みはよいアイデアである。</p>	B
5	中川公園	B	<p>・大島小松川公園では、東京五輪により人気が高まったスケートボードの利用について、安全・騒音などの課題解決に向けて、近隣町会を含めた意見交換会（パークミーティング）を実施した。</p>	B
6	大島小松川公園	B	<p>・宇喜田公園では、都民協働により実施してきたハーブガーデンの取組が年々充実し、マスコミに取り上げられるまでになった。ハーブボランティアが、育てたラベンダーを一般来園者や近隣の大規模病院に配布し、医療従事者や患者を含めた多くの方に喜ばれて、地域貢献をすることができた。五年にわたり活動を拡充し、公園だけでなく地域としての魅力向上と、都民の活動の場の提供に寄与していることは評価できる。</p>	B
7	宇喜田公園	B		B

グループ名	都市部の公園・南部グループ
指定管理者名	東京南部パークスグループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
8	日比谷公園	S	<p>・グループ全体として、コロナ禍2年目において「新しい日常」を考慮したイベント開催、利用者の安心・安全に配慮した運営、管理に取り組んだ。また、日比谷公園と野外音楽堂では、首都の中心部のポテンシャルを活かして、全国レベルの企業やアーティストの参加協力の輪を広げ、大規模でレベルの高い文化発信を図った。</p> <p>・日比谷公園では、占用イベント実施時に、主催者に対して感染症対策徹底の粘り強い指導を行うなど、コロナの感染対策の確実な実行による適正利用を図り、園内の安全確保に努めた。また、第二花壇芝生地にテラス空間を創出した「SHIBAFU TERRACE」は、日比谷エリアマネジメント主催イベントと同日開催し、イベントポスターを相互の会場で掲出してより多くの方へアプローチを図るなど、日比谷の街との連携を強化するとともに、エリア全体の盛り上げに貢献した。コロナ化でも公園でもいとおもいに楽しめる場と時間を提供したノウハウを、グループの他の公園にも広げることを期待する。さらに、「日比谷アカリテラス」では、特別カラーでライトアップした日比谷公会堂の前でクラシックを演奏した動画を配信するとともに、配信期間中も実際にライトアップすることで、公園の持つ歴史的価値をPRし、知名度と魅力向上に努めた。加えて、日比谷公園パークミーティングの開催では、出席の18企業、団体に向けて日比谷公園及び日比谷の街の活性化に向けた取組を提案し、意見交換を行ったことで、連携したイベントの実現に繋がった。</p>	S
9	芝公園	B	<p>・芝公園では、一般社団法人と「おもてなしの庭」を再現し、きめ細かな維持管理に取り組み、東京2020大会に合わせた新たな「和の空間」の魅力の発信を行った。</p> <p>・青山公園では、近隣保育園への「キッズ防災クイズ」の配付や、消防署や町会、近隣保育園等と連携した防災訓練を実施し、コロナ禍であっても楽しめる内容で子ども達に防災の啓発を行うとともに、地域の防災対応力の向上を図った。また、近隣保育園と協働して南地区トイレの壁面緑化装置の設置や花壇リニューアルを実施することで、明るく利用しやすいトイレになるとともに、喫煙や吸殻のポイ捨てが減少するなどの効果に繋がった。</p>	B
10	青山公園	A	<p>・林試の森公園では、初めて目黒区・目黒警察署と連携して公園が策定した訓練計画に基づく防災訓練を開催し、起震車体験や防災トイレの展示、園内の防災施設紹介のパネル展示・説明等と内容を充実させることで、近隣の保育園3団体、外国人学校、インターナショナルスクール計230人の参加者が、楽しみながら防災意識を向上できるような図った。また、プチボラを拡充した「マナーアップガイド」を新たに開始し、コロナ禍において公園の利用者増加に伴う園内利用マナーの周知・啓発活動を、職員とガイドボランティアが協力して行い、苦情要望を前年比24%減少させたことは評価できる。</p>	A
11	林試の森公園	A	<p>・祖師谷公園では、エントランス広場のスケートボード利用時間の短縮運用を実施にあたり、夜間の騒音やマナーについて、スケートボード利用者代表や近隣住民との意見交換や、関係部署との調整を行うとともに、事前周知、園内放送による案内、夜間パトロール強化等の対策を施すことで、トラブルの発生防止に寄与した。また、お花いっぱい事業では、初めて花壇ボランティアに講師を依頼するとともに、楽しみながら「花育」活動ができる場を提供することで、次世代を担う子ども達の情操教育に貢献した。</p>	A
12	蘆花恒春園	B	<p>・日比谷公園大音楽堂では、「日比谷野音オープンデー」を11月に初めて開催し、日比谷公園との連携及び近隣駅などへのチラシ設置等によるイベント周知を図ったことや、当日の来園者への呼びかけや来場者のSNS発信効果等により、当初の計画を大幅に上回る約1,000人の来場者があり、施設のPRと魅力の向上に繋がった。また、「日比谷音楽祭2021」は、緊急事態宣言中だったものの、無観客のオンライン生配信イベントとして実施、動画配信は2日間で視聴者数15万人、総再生回数51万7千回という非常に多くの視聴があるとともに、メディアで多数取り上げられたことで、日比谷公園と野外大音楽堂のPR並びに魅力の向上にも繋がった。実施にあたっては、各種ガイドラインに基づく徹底した感染対策と、無観客イベントであることから園内の外聞き対策として警備体制を敷くなど、適切な対応を取って開催したことは特筆すべき点である。</p>	B
13	祖師谷公園	A	<p>・日比谷公園大音楽堂では、「日比谷野音オープンデー」を11月に初めて開催し、日比谷公園との連携及び近隣駅などへのチラシ設置等によるイベント周知を図ったことや、当日の来園者への呼びかけや来場者のSNS発信効果等により、当初の計画を大幅に上回る約1,000人の来場者があり、施設のPRと魅力の向上に繋がった。また、「日比谷音楽祭2021」は、緊急事態宣言中だったものの、無観客のオンライン生配信イベントとして実施、動画配信は2日間で視聴者数15万人、総再生回数51万7千回という非常に多くの視聴があるとともに、メディアで多数取り上げられたことで、日比谷公園と野外大音楽堂のPR並びに魅力の向上にも繋がった。実施にあたっては、各種ガイドラインに基づく徹底した感染対策と、無観客イベントであることから園内の外聞き対策として警備体制を敷くなど、適切な対応を取って開催したことは特筆すべき点である。</p>	A
14	日比谷公園大音楽堂	S		S

グループ名	都市部の公園・北部グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
15	戸山公園	B	<p>・グループ全体で、利用者とコミュニケーションを取る方法として、公園特性に合わせた協働により、公園の効用発揮につなげた。また、浮間公園などの先行的な取組では、市民協働を引き出してまとめていくノウハウを積み上げ、それをグループ内の公園で共有しており、それぞれで工夫をしまはじめている様子が見受けられる。</p> <p>・戸山公園では、アスレチック広場における少年野球リーグ（8団体）の利用調整について、長年利用されてきたこともあり調整が困難であったものの、粘り強い指導と調整により、使用時間や面積を従来の2/3程度に縮小させることで、一般利用者のオープンスペースを拡充することができ、双方が安心して利用できる環境を創出した。また、「内藤とうがらし戸山公園プロジェクト」を結成し、内藤カボチャも含めた江戸野菜の普及に努めた点は評価に値するとともに、今後当該野菜の特性を活かした料理の普及に努められることを期待する。</p>	A
16	善福寺公園	A	<p>・善福寺公園では、NPOやボランティアと協働して外来種駆除を実施し、ブルーギル等の生物は約1,588匹（前年比▲1,155匹）、植物は約500株（前年比▲300株）と捕獲数が減少に転じており、着実に効果が表れている。また、開園60周年記念事業の1つとして、日本野鳥の会、杉並区と連携して「バードウィーク」を開催し、各分野に精通する方のコメントや公園の沿革や魅力を盛り込んだパネル等を展示し、来園者にコメントを募った「未来へ向けてのメッセージボード」には54枚の声が集まるなど、公園ファンの増加に努めた。</p>	A
17	高井戸公園	A	<p>・高井戸公園では、追加開園によって公園が住宅地と直接接することとなり、夜間の騒音や犬連れのマナー問題等について、関係機関と密に連携しながら適切に対応するとともに、近隣住民に対しても丁寧な対応をすることで理解を取り付け、良好な関係構築を図っている。</p> <p>また、「あおぞら会議」を通じて、気軽に公園管理に参加してくれる気運が高まり、親子連れに加え、子どもボランティアによる石ひろいや外来植物オニアザミ退治、花壇づくりなど、協働の輪を広げている。</p>	A
18	浮間公園	A	<p>・浮間公園では、釣人との協働による「ブルーギルバイバイプロジェクト」が今年度、多くのメディアに取り上げられるなど認知度が上がることで、協力者と回収量が倍増し、回収ボックスも1基増設するなど、着実に活動を広げている。また、地域の親子連れを中心とした「うきうき隊」とのワークショップでは、毎月約30名が参加し、絵本の読み聞かせなど、多世代が交流する様々な事業を展開し、「うきうきミーティング」では、垣根の低い参加の場づくりにより、分かりやすい将来像・夢を参加者が共有できたことで、さらに大きな参加の輪が広がり、みんなの夢を実現した。この成功体験は、次年度以降の活動や、他の公園への波及効果は大きいと感じる。</p> <p>さらに、コミュニティーガーデンづくりでは、延べ約500名の協力を得た低木や宿根草の植栽や、1万球のチューリップで広場を彩るクラウドファンディング&植付けワークショップを実施するなど、地域が一体となった取組に成長した。加えて、園内の東京都や多面的活用の工事の施工が集中し、高いリスク管理により事故等を未然に防いだことや、都事業の花と光のムーブメントとタイアップし、駅との連携やSNS発信により広報に力を入れたことなど、都からの要請に適切に対応したことを評価する。</p>	A
19	赤塚公園	A	<p>・赤塚公園では、地元を代表するアートイベント「東京五感公園」を、感染症対策を徹底して開催に漕ぎつけ、LED入りのバルーンや竹製のランタンによる夜間演出等、多くの人が夢を感じる企画イメージの提示により、参加の輪を広げ、管理者だけではできないすばらしい企画が実現した。地元のネット新聞の年間ページビューでも1位に選ばれるなど、大きな反響があり、公園の知名度や魅力向上に寄与した。また、放置自転車や樹木に放火された跡が見つかるなどのポヤ騒ぎが頻発したため、警察・消防など関係機関と連携し事件の再発防止に努めた。子供の火遊びを発見、保護したことなどの取組が評価され、消防所長から感謝状を授与された。</p>	A
20	石神井公園	A	<p>・石神井公園では、20年以上に渡って週末に隣接する区道に出店する不法屋台6台を、石神井警察署や練馬区と連携した積極的な巡回警告や監視、物理的処置によって、排除することに成功し、地域の懸念や不満解消に貢献した。また、今年度から新たに石神井公園の自然や季節の魅力を伝える動画配信を開始するとともに、ツイッターでは「石神井公園図鑑」の展開など情報発信に力を入れてフォロワー数が2,900人を突破（前年比約150%）するなど、公園のファンをさらに増やすことに成功している。</p>	A
21	大泉中央公園	B	<p>・戸山公園では、伐採に近い大規模な樹木剪定を実施し、景観を悪化させ利用者からの苦情が発生した。都とも相談の上、慎重に維持管理作業を行うよう、再発防止に努められたい。</p>	B

グループ名	武蔵野の公園グループ
指定管理者名	西武・武蔵野パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
22	武蔵野公園	A	<p>・グループ全体で、市民への適切な発信により、地域全体に理解と参加の輪を広げた環境保全や公園活用の取組のノウハウを蓄積するとともに、コミュニティ、自然保護などの専門性のあるコーディネーターの育成と、ITシステム導入による情報共有によって、そのノウハウのさらなる高度化、共有化が見受けられることは評価に値する。また、コロナ禍で、「みんなで場づくり」的な参加プログラムは少なかったが、新しい日常に即したイベントやボランティア活動を実践し、公園利用の可能性を上げたほか、代替的に「公園を楽しむPLAY BOOK」のような形で、個人々が公園の楽しみを開拓するためのサポートを進めた。さらに、防災学習会の開催、発災時の初動対応訓練等によるスタッフの防災力向上の取組、イベントや冊子等の配布物を活用した来園者に対する防災意識の普及啓発など、多角的に防災への取組が行われた。</p>	A
23	浅間山公園	B	<p>・武蔵野公園では、スーパーサイエンスハイスクールである近隣高校の教養総合自然調査コース23人に対し、年間10回の連続講座「ジュニアレンジャースクール」を初開催した。自然環境調査業務を体験できるプログラムを行ったことで、将来を担う専門技術を持つ高校生への育成に貢献できた。また、トイレ診断などの維持管理PDCAサイクルの徹底は地味ながら管理の根幹をなす作業であって評価できる。他の公園への拡大も期待したい。さらに、都の「多様な生物が生息する都立公園づくり事業」に協力し、過去11年分におよぶ動植物のモニタリング情報を共有。意見交換会では長年の保全の取組を解説するとともに、市民団体や専門家との連絡調整を担い活発な議論につなげた。</p>	B
24	野川公園	S	<p>・浅間山公園において、ナラ枯れ対策として短期中期長期の計画を策定しており、評価できる。今後より実用的なものへバージョンアップしていくことを期待する。</p>	S
25	狭山・境緑道	B	<p>・野川公園では、走り幅跳びの世界記録とバッタの飛翔距離を比較・体感し、子供たちが楽しみながら学ぶことができる「ネイチャーチャンピオン」などのプログラムを実施し、オリンピック・パラリンピックへの気運醸成を図り、参加者からも好評を得たことは評価できる。また、オンラインの環境教育プログラムとして「キッズレンジャースクール」を新たに企画した。ウェブサイトでZoomを活用して自然に関する質問にレンジャーが直接回答するなど、画面越しに双方のやり取りを可能にしたことで、参加者の満足度が高まった。さらに、アメリカンスクールとの連携の他、子どもたちの自宅学習を支援するホームスクールの国際団体と初連携し、英語のプログラムを実施。SDGsや身近な環境問題についての普及啓発に成功した。加えて、しょうぶ池の過剰繁茂の植物を除去することにより、貯水量が改善した結果、ニホンアカガエルの産卵数が大幅に増加し、過去最大の100個超を記録した。</p>	B
26	玉川上水緑道	B	<p>・玉川上水緑道では、市民参加型でナラ枯れの拡散防止用の粘着シートトラップを設置し、大きな成果を上げるとともに、ナラ枯れの特徴や対策法などについてパークレンジャーによる講演とガイドを実施して、普及啓発を促進することができた。</p>	B
27	武蔵国分寺公園	S	<p>・武蔵国分寺公園では、パラリンピックセレブレーション会場に隣接しており、組織委員会と連携してセレブレーションを盛り上げるとともに、スポーツ総合イベント「チャレンジキャラバン」を開催し、各種団体と連携してパラリンピック種目の魅力を発信するための体験会やパネル展示を実施した。また、産官学民24団体が参加する「第2回はけの自然とくらしのオンラインフォーラム」を開催し、継続的なフォーラム開催により、国分寺産線の保全と活用を検討するための広域連携の場が定着・拡大した。さらに、市民参加型アメニティチェックを実施し、結果を踏まえて国分寺市と連携した市民懇談会を開催。市民とのワークショップを通じて、具体的なニーズを把握し事業に反映した。加えて、武蔵の池のグリーンウォーター化について、近隣の精密機器企業と連携し、プランクトン調査を実施し原因種の特定に成功。改善対策に取り組んだ結果、水質改善について一定の成果が見られ、オンドリ（東京都北多摩絶滅危惧Ⅱ類）の飛来も確認された。</p>	S
28	東伏見公園	B	<p>・東伏見公園では、公園とその周辺地域の魅力を発信する「むさしの公園周辺ガイド～東伏見公園周辺エリア編～」をwithコロナの取組として紙媒体から動画に変更して作成した。地域の動画クリエイターとコラボし、子ども目線で公園とその周辺の魅力をPRする構成としており、東伏見公園周辺エリアの魅力を躍動感を持って発信することができた点を評価した。</p>	B
29	六仙公園	B		B

グループ名	多摩部の公園グループ
指定管理者名	西武・多摩部の公園パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
30	陵南公園	A	<p>・グループ全体として、新型コロナウイルス感染拡大により新たに生じている公園ニーズや地域の課題に対し、これまで培ってきた地域との信頼関係や公園の緑豊かな解放空間を活用して関係機関や市民団体等と協働による様々なプログラムを企画・実施し、都市公園等コンクールへ応募。地域と共にコロナ禍に挑む公園管理の取組が評価され、国土交通大臣賞を受賞した。陵南公園の「秋空ガーデンマルシェ」、小宮公園の「冬＊カフェ Day」「青空ひろば・ぼうけんの森」、滝山公園の「山城カフェ」、大戸緑地の「森のぼうけん遊び」など、参加者が思い思いに楽しい企画を出し合えるような「場づくりの企画」のノウハウが積み上がってきているのが高く評価できる。また、公園特性を生かした様々な取組によりマイクロツーリズムの価値を高めている点も評価に値する。陵南公園、大戸緑地では実際に利用者数が増えており、今後の更なる利活用の促進に期待したい。</p> <p>・陵南公園では、隣接地の南浅川法面草地での調査で新たにショウリョウバッタモドキを確認したため、所管である八王子市と連携して保全活動を行うことで、園内のばったランドにショウリョウバッタモドキを呼び込むことに成功した。また、健康づくりをサポートするセルフガイドとして健康遊具の効果的な活用方法を伝える「ヘルシーサポートシート」を新たに発行。周辺36町会等で約2,000枚を回覧・配布することで地域への周知を強化し、健康施設の利用促進に努め、地域住民の健康増進に寄与する取組を積極的に推進したことは評価に値する。</p>	A
31	小宮公園	S	<p>・小宮公園では、コロナ禍におけるセルフガイドイベントで、新規24種含む53種を展開し、コロナ禍でも季節を楽しめるプログラムの展開が公園利用の促進に繋がり、のべ14,690人が参加した。コロナ過でも創意工夫により新たな公園利用の方法を展開し、大きな効果を上げていることを高く評価する。また、園内絶滅種であるヤマアカガエルの地域遺伝子による繁殖に4年間取り組んだ結果、育てたカエルが初めて産卵し、28卵塊、約6,000の卵を確認した。地域との連携により園内ピオトープ他3か所まで飼育を行い、50年以上絶滅状態だった種の復活を成し遂げた。さらに、木道が滑りやすいとの近隣利用者の声を受け、滑り止めテープの設置等の即日対応を行うとともに、中長期的には、効果が期待される数種類の方法を試行し、効果の確認を行った上で対策を行い、安全性の向上を図った。加えて、毎年実施している犬のマナーアップキャンペーンを継続的に実施。夜間の犬の散歩マナーが悪いことを突き止め、照明付きの啓発サインの設置により犬の糞の放置が減少した。</p>	S
31	滝山公園	B	<p>・滝山公園では、滝山観光まちおこし実行委員会や八王子市と連携し、「滝山城ワードラリー」、「マンガでわかる滝山城」を発行配布、「滝山城CAFÉ」、「忍者になって滝山城を楽しもう」など多様な初開催イベントを実施。特に、山城の魅力を探す「滝山城ワードラリー」では前年の倍の1,000人の参加があった。コロナ禍の中、滝山城築城500年を地域連携で盛り上げたことは評価できる。</p> <p>・大戸緑地では、開園10周年事業の企画として、公園に隣接する青少年センターと初共催した、セルフプログラム「たんけんワードラリー」、地域のニーズを取り入れた「森のぼうけん遊び」、コロナ禍に対応して分散開催により実施した「木のぼり教室」など、地域と連携しながら、コロナ過でも楽しめる多様な体験プログラムを展開している点は評価できる。また、はず池の改修に伴い、池の中に「ガマエリア」「開放水面エリア」「湿地エリア」の3つの異なる環境を整備した。それぞれの環境を好む多くの生きものの生育が期待でき、その後開放水面エリアにはこれまでに初となるヤマアカガエルの産卵が確認された。</p>	B
33	大戸緑地	B	<p>・滝山公園では、滝山城の遺構景観保全のための草刈りに関して、歴史NPOから都に対して多数の対応の要望が出されている。今後は、創意工夫を凝らした適切な対応を期待する。一層の公園の魅力向上、歴史的価値の保全のため、歴史NPOとの連携を強化した上で植栽管理業務を実施されたい。</p>	A

グループ名	狭山丘陵グループ
指定管理者名	西武・狭山丘陵パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
34	狭山公園	S	<p>・グループ全体として、狭山丘陵を一体的な東京の里山体験のフィールドとして位置づけ、トレイルや里山保全の体験の場としてのプログラムを共有・提供している取組は、高く評価できる。また、「狭山丘陵フィールドシンポジウム」に、多数の団体・人数が参加していることは、そのような取組が地域に浸透してきている証である。さらに、環境教育として、ほぼすべての公園で、自治体、地元の幼稚園、小学校など連携して活動を進めており、里山の環境保全に向け大変に重要な取組みを推進している。さらに、持続可能な社会に貢献する公園づくりをグループ内に展開するだけでなく、外部への積極的な発信に取り組んだ。</p> <p>・狭山公園では、これまでの狭山丘陵での連携の実績を活かし、「狭山丘陵フィールドシンポジウム」と狭山丘陵フェア「SAYAMAHILLS DAY」を同日開催し、2,415人が参加。都県境を越えた60主体の協力を得て狭山丘陵の魅力と保全活動を発信すると共に、多くの都民にサステナブルライフスタイルを考える機会を提供したことは高く評価できる。また、水道局所管となる多摩湖提体に確認された希少植物のミノボロスゲ、スズサイコの保全の為、水道局と協議を進め、生育地拡大に向けた取組を実施し、公園内に限定せず、地域全体の環境保全に積極的に取り組んでいる。さらに、老朽化が原因で漏水した給水管の調査を行い、管理所及びトイレ（4か所）、水飲み場（7か所）の給水系統を補修し、止水バルブの新規設置とともに配管図面を作成し、今後の効率的な維持管理の効率向上に大きく寄与した。加えて、新たに都内の2つの学校とのスキ草地の保全活動を開始。コロナ過で他県での実習ができない学校の校外活動の受け皿となった。</p>	S
35	八国山緑地	A	<p>・八国山緑地では、学校連携総合教育プログラムとして、ふたつ池の埋土種子発芽実験、ガイドウォーク、湿地保全作業、笹刈りを実施した。活動を継続することにより、様々な観点から有意義な教育の場を継続的に提供するとともに、絶滅危惧種4種を含む14種が発芽するなど、希少種保全の観点からも、大きな効果を上げている。また、パークモニタリングアプリを用いて、カエントケの発生個所を記録し、報告・駆除・注意喚起を速やかに行うとともに、定期点検にも活用して大きな効果を上げた。</p>	A
36	東大和公園	B	<p>・野山北・六道山公園では、都民協働において、CRM（顧客管理ソフト）の導入などDX化を大きく推進した。利便性が向上したことで、ボランティア活動の新しい活動形態が構築され、約15種類の活動にのべ約1,700人が参加。ボランティア活動のさらなる活性化が実現し、今後の発展にも期待できる。また、良好な環境創出に取り組んでいた湿地において東京都優先保全対象種であるタチスゲが確認された。現在、都内唯一の生息地となっている点からも生物多様性への取組が成功しており、高く評価できる。さらに、老朽化した木橋について、単なる補修にとどまらず、長寿命化や強度向上、バリアフリー化など非常に細やかな配慮を尽くした効果的な施設改修を実施した。加えて、パークレンジャーによる、自然を活かした遊びを体験する「のやまキッズプログラム」、環境学習プログラム「里山キッズ探検隊」等、自然環境を活かした多数のイベント等を実施。公園の魅力向上に努めた。</p>	B
37	野山北・六道山公園	S	<p>・狭山公園では、維持管理作業中にクレーン転倒事故が発生した。人身、物損は無かったが、再発防止を徹底されたい。</p>	S
38	中藤公園	B		B

グループ名	多摩丘陵グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
39	長沼公園	A	<p>・グループ全体として、里山環境を保全・創出するだけでなく、サードプレイスとして活用することで、地域の多世代が交流する場を提供した。一方、工夫した催しはいくつかあるが、全体として旧来型の「公園スタッフが考えて提供する」スタイルの運営にとどまっている様子も見受けられる。子育て世帯も多く暮らす地域のニーズを把握し、若い世代、子育て世代が自らの発想で企画を生み出せるような機会の提供を期待したい。</p> <p>・長沼公園では、ひよどり沢、柿の木谷戸におけるムカシヤンマの復活や、現在都内唯一とされるアサヒナカワトンボとニホンカワトンボの混生地、オオタカやミゾゴイの休息場所ともなる非常に質の高い生物生息環境の創出及び維持を行っており、評価に値する。また、ボランティアと協働で保全活動を行っているカタクリは、今年度も約35,000株が咲き、自生地区を開放してセルフガイドシートを配布することで、来園者に春の風物詩を楽しんでもらえるよう図った。</p>	A
40	平山城址公園	B	<p>・小山田緑地では、地元との連携及びボランティアとの協働による自然観察会の実施や、丘陵地レンジャーがコーディネートしてアリの研究をしている近隣大学院生を講師に招き、地元小学生を対象とした昆虫観察会を実現させるなど、多角的な視点であらたな地元連携をつくり、里山環境の保全活動の紹介や利用者への生物多様性の普及啓発に努めた。</p> <p>・小山内裏公園では、都の要請による尾根緑道内の「小山内裏公園健康づくりコース」の設定にあたり、地理情報システムを活用した正確な距離表示施工位置図の作成など、きめ細かな対応を行い、ジョギング等を楽しむ際の利便性向上に貢献した。また、「いきいき交流の集い里山マルシェ」では、参加団体の基準を設け、これまでの参加団体に加え新たな地域団体の参加を増やすなど地域における協力団体の拡充に努めた。</p>	B
41	小山田緑地	A	<p>・桜ヶ丘公園では、キシウブの除去等によりゲンジボタルの生息環境を整え、個体数増加に繋げるとともに、ミズオオバコやアカハライモリ、タイコウチの生息環境を維持管理手法の工夫で支え、在来種のドジョウの生息を確認しており、確実な環境保全を進めている。また、特別支援学校等の生徒への環境教育アクティビティとして、学年ごとの特性や児童の成長に応じて、公園の豊かな自然の中で活発に活動できる機会を提供したことは評価に値する。</p>	A
42	小山内裏公園	A		A
43	桜ヶ丘公園	A		A

グループ名	大神山公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
44	大神山公園	A	<p>・大神山公園は、小笠原を訪れる観光客、地元の関係者の中でビジターセンター的機能がかなり浸透し、認識されてきた様子も見受けられ、評価に値する。</p> <p>また、新たに近隣高校と連携して、南海トラフ沖地震を想定した地域連携避難訓練を実施し、村の震災対策マニュアルに沿って避難所まで職員が生徒・教員約60人を避難誘導、発災時の動きを確認することで、防災意識向上に貢献した。さらに、お祭り広場が東京2020大会聖火リレーのゴール地点となり、現地調査団が事前に来島した際には、村役場や警察と共同で走行ルートや警備体制の確認を入念に行うことで、リレーの安全な開催に貢献した。</p>	A

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
45	東白鬚公園	A	・グループ全体として、コロナ禍において公園はサードプレイスとしての役割が強く求められていることから、参加型の場づくりの取組をもっと積極的に進めるとともに、決められたプログラムや出し物で客を動員するのではなく、マルシェや屋外カフェなど、緑の中でゆったりとみんなで過ごす時間、楽しむ場を参加型でつくっていく手法を開発し、共有化することを期待する。	A
46	木場公園	A	・東白鬚公園では、墨田区内の防災機能や防災クイズ等を盛り込んだ「防災遠足」を、昨年より4団体拡充して子ども・高齢者・養護施設等の計20団体が参加してオンラインで開催し、園内の防災施設の役割等を動画配信するなど、若い世代と公園を繋げるとともに地域の防災力向上を図った。また、公園フェスタでは、イルミネーションと昔遊び等のプログラムを展開し、特に昔遊びでは、地域の方が子ども達に遊び方を教えるなど、世代を超えた地域交流に貢献した。	A
47	砧公園	B	・木場公園では、「こどものにわネットワーク」の立ち上げや「親子で自然と遊べるガイドブック」発行は、都心の子育てに対しての公園の可能性を広げる取組として高く評価でき、他の公園への展開も期待したい。また、新たな地域の5団体とのパートナーシップの開拓や、アートイベントボランティアとの共催・協働による地域連携を拡充し、地域貢献の一助となる役割を果たした。園内ボランティア活動活性化により植物園やちよこっとガーデニング等の美観維持や公園の美観向上、ボランティア団体への小学生会員加入による年齢層の拡大など、公園利用者への心地よさの提供や公園運営への参加拡充により、居心地がよく身近な公園となるよう努めた。	B
48	駒沢オリンピック公園	A	・砧公園では、コロナ禍の状況下で利用者が最も緑の癒しを求める公園のひとつと言え、利用者満足度も各項目で上昇しているが、受け止める管理者側に積極的な受け入れ姿勢が見られないことは残念である。裏方に徹してインクルーシブな見守りをあえて強調していく考えを否定はしないが、折角の公園資源を生かし切れていないように見えるため、今後に期待したい。	A
49	代々木公園	S	・駒沢オリンピック公園では、スケートボード利用者による騒音トラブルの解消のため、巡回指導や園内放送、マナーブックのSS広場への設置等、利用者のマナー向上や問題解決に取り組んでおり評価できる。また、オンラインで開催した駒沢ファンタジアは、前回好評だった公園や地域の魅力紹介をするアプリクイズゲーム「ファンタジアラリー」のスポットを12か所から30か所に増やしてイベントの内容を充実させるとともに、新たに近隣の4つの歴史博物館や美術館、向井潤吉アトリエ館等の協力も取り付ける事ができ、世田谷地域の魅力アピールと活性化に繋がった。	S
50	善福寺川緑地	A	・代々木公園では、バスケットコートにおいて、利用者増加によるゴミ問題やマナー違反の解決に向けたプロジェクトを始動し、集まった全員でゲームを行った後にゴミ拾いを実施し、コミュニティ形成と帰属意識によるモラル醸成を図った。また、東京2020大会の練習会場、文化事業、聖火リレーの式典などで使用する場所について、清掃内容を細部まで確認し、短時間で効率的な作業の実施や、不特定多数の出入り防止等、感染対策を徹底することで、公園一丸となって対応し、大会成功に貢献した。さらに、ワクチン大規模接種会場への転用決定から供給開始まで短時間での工事が必要となったが、オリパラ準備局や福祉保健局、設営業者との打合せを重ねることで、来園者の安全を確保しつつ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に貢献した。	A
51	和田堀公園	B	・汐入公園では、汐入ハーブ園で収穫した50種類のハーブを乾燥させて詰めたボトルを展示した「ハーブの香りカフェ」において、香りを楽しめる環境の提供や名前や機能の展示を行うとともに、自分にあう効能のハーブを選んで不織布のバッグに詰めるサシェ作り体験を実施するなど、汐入ハーブ園の認知度向上に努めた。	B
52	汐入公園	A	・城北中央公園では、既設のとんぼ池の水深では野鳥が近寄らないため、新たに水飲み場を整備して生息環境を整えるとともに、利用者が野鳥観察を楽しむ場としても機能し、生物多様性保全に貢献した。	A
53	城北中央公園	B	・光が丘公園では、関係団体と連携して普段見ることのできない生き物を間近で観察して、生物多様性保存の普及啓発に繋げるイベントを各種実施。夜の小動物観察会では夜の昆虫の活動やコウモリ等、子供たちが関心を持てる観察ポイントを工夫するとともに、アメリカザリガニの駆除は、参加者を増やすため小さな子供でも簡単にできる方法で実施し、捕獲数は1,000匹を超える等、成果を上げていることを評価する。	B
54	光が丘公園	B	・舎人公園では、今年度オープンした冒険の丘での利用者ニーズに応え、利用ルールの柔軟な変更や駐輪場スペースの増設により、利便性向上を図るとともに、幼児の遊び場では、遊具に防音シートをつけるなど、迅速に近隣住民騒音対策をとり、適正な管理を行った。また、10月の地震発生による舎人ライナーの脱線において、車両運搬等の復旧のため、多数の関係機関と調整を行い、駐車場の利用規制や公園地を一部提供するなど、舎人ライナーの運転再開に協力したこと等を評価する。	B
55	舎人公園	A		A

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
56	水元公園	B	・篠崎公園では、高台化住民説明会の際、事前の出席調整をきめ細かく行うことで、警察や消防、近隣町会、自治会等の代表40名の参加協力に繋がった。また、「ハーモニーフェスティバル」は、専用紙に描いた絵をスキャナーで読み込むことで絵が動き出す「紙アプリ」を活用した、VR方式の新しい試みの内容であるとともに、近隣小学校や保育園等への広報も力を入れた結果、386人と多くの参加者を集めたことは評価できる。	B
57	篠崎公園	A	・葛西臨海公園では、公園の発案により、水族園や観覧車等の園内事業者と合同で、葛西警察署と連携したテロ対策訓練を行い、連携強化を図った。また、秋の公園フェスティバルとして実施した3つのイベントのうち「SDGs啓発イベント」は、若い世代が多く視聴するイベントと協力して実施し、リサイクル素材を活用したファッションの紹介や海洋プラスチックゴミ問題を提起するなど、公式生配信で視聴した延べ14万人にSDGsの普及啓発を図った。さらに、東京2020大会開催時には、大会組織委員会による様々な公園利用について現地で調整し、特に駐車場の大会利用や、「パラリンピック聖火リレー点灯式」実施においては、都の指導のもと、大会組織委員会や江戸川区、警視庁と何度も打合せを行い、大会成功に貢献した。	A
58	葛西臨海公園	S	・武蔵野中央公園では、武蔵野市と東京2020大会にちなんだおもてなし花壇制作や配布物の提供を行うとともに、共催で開催する防災フェスタ中止に伴う公園主催ガイドツアーへの協力等の連携が図れ、地域では住民との合同夜間パトロールの実施など公園を核とする事業を実施した。また、絶滅危惧Ⅱ類のカワラケツメイの播種による個体数増や、カラスノゴマ、フジバカマなどの育苗により、ツマグロキチョウやアサギマダラの誘引に繋げており、希少種保全に努めていることを評価する。	S
59	武蔵野中央公園	A	・府中の森公園では、遊具広場運営の方向性を構築するため、新たに府中市の子育て関連団体や障害関連団体との意見交換により連携を深め、プログラムや広場運営の協力を得ることができるとともに、多岐にわたり連携を図った。また、遊具改修工事に伴う工事業者との調整や近隣町会長への説明等、東京都と連携を図るとともに、遊具オープン後も利用促進イベントの充実やモニタリング調査による利用実態把握など、遊具広場の運営に貢献した。	A
60	府中の森公園	A	・武蔵野の森公園では、東京2020大会競技実施に際し、都及び大会組織委員会等関係機関と綿密な連携を取り、毎週の定例ミーティング等により準備工事および終了後撤収工事を全面的にサポートした。また、地元住民・公園利用者との調和を主眼に置き、来園者・観客目線でのサービスの向上や安全確保の推進、利用者に対するタイムリーかつ丁寧な情報発信、不具合の発見、事故の未然防止等に尽力し、大会成功に大きく貢献した。さらに、戦争遺跡に関して、地元団体と協働でプロペラと掩体壕を中心に史実をまとめたA5判70頁の冊子「つばさに託して」を刊行して全国の関係機関等に配付し、戦争の記憶を次世代に継承する活動を強く推進した。	A
61	武蔵野の森公園	S	・小金井公園では、スケートボードの利用マナー啓発に取り組むとともに、ドッグラン咬傷事故後の夜間巡回や注意喚起等の再発防止策徹底、利用者への粘り強い指導を行った。また、地域連携により開催した「コスモスまつり」では、地域の事業者や名産を公園に取り込み、新たな魅力創出を図るとともに、花壇を活用したボランティア活動参加促進の取組や、自宅でも楽しめる「自然観察動画」の配信等を、ボランティアや学校等と連携して展開していることは評価に値する。	S
62	小金井公園	B	・東村山中央公園では、3年をかけてアサギマダラが好むフジバカマを増やし、今年度10月に初飛来を確認することに成功した。また、近隣の高校や市立小学校、東村山警察署等に積極的に働きかけ、職場体験として地域の方々と一緒に花壇をリニューアルした。	B
63	東村山中央公園	A	・砧公園では、2か月間車検証の切れた車両を使用し、4回公道を走行した。再発防止を徹底されたい。 ・駒沢オリンピック公園では、1か月以上車検証の切れた車両を使用した。再発防止を徹底されたい。	A
64	東大和南公園	B	・城北中央公園及び光が丘公園では、占用許可手続きにおいて、求積図が不十分なまま受付をするなど、一部で不適切な処理があった。再発防止に努められたい。 ・小金井公園では、樹木伐採作業においてクレーン横転事故が発生した。人身被害はなかったが、再発防止を徹底されたい。	B
65	秋留台公園	A		A

グループ名	文化財庭園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
66	浜離宮恩賜庭園	A	<p>・グループ全体として、庭園の魅力向上、文化の発信を行い、新たなファン層の獲得とウィズコロナ・アフターコロナを見据えた来園の動機付けに取り組んでいる。特に、浜離宮恩賜庭園で撮影された幻想的な映像発信のような効果的なプロモーションを、他の庭園でも積極的に取り組むことによる、プロモーション力の高い映像コンテンツの蓄積を期待する。</p> <p>また、浜離宮恩賜庭園での「御台所の園内回遊や舟遊び」や、小石川後楽園での雅楽の演奏の再現の取り組みは、伝統的な空間で、どのような人がどんな楽しみ方をしていたのかを再現し、新たにその空間やデザインの意味や魅力を際立たせている点において、大変高く評価できる。</p>	A
67	旧芝離宮恩賜庭園	B	<p>・浜離宮恩賜庭園では、「お庭楽間」を開催し、実物の馬具展示や西洋馬術の装束に身を包んだスタッフによる展示解説等、昨年度はパネル展だけだった内容を充実させた。また、生活文化局主催の東京2020大会機運醸成イベント「パピリオン・トウキョウ」やTTFスペシャル13「隅田川怒涛」の会場として協力した。さらに、東京2020大会のメインプレスセンターに集まる海外メディアを対象としたツアーの訪問先として、6日間に渡って、延べ20か国、60名を相手に、閉園後の園内の案内や関心の高かった松の管理方法の説明、記者からの質問に対応するなど、東京を代表する施設としての認知度向上に貢献した。</p>	B
68	小石川後楽園	A	<p>・小石川後楽園では、6月の再開園に合わせて、これまで臨時的にしか使用していなかった東門に職員を配し通常開門とし、キャッシュレスによる券売業務、来園者対応を行った。駅からのアクセスとして来園者の利便性を大幅に向上できただけでなく、昨年度完成した唐門の魅力発信にも繋がった。また、唐門一周年記念行事の開催では、記念講演会、唐門特別開門、内庭での雅楽の演奏等により、入園者制限中にも関わらず開催期間の4日間で約4,000人の来園があり、多くの方に唐門本来の観賞動線の視点で重要性の高い建造物であることをPRした。</p>	A
69	六義園	A	<p>・六義園では、コロナ禍で園内での団体見学は中止となったが、各教育機関と相談し、出張講義やオンライン講座、少人数グループに分けての実習等を行い、様々な切り口から庭園を素材として作成した各学年に適應する学習プログラムを用意したことで、学校教育団体の受入数を昨年度の35団体から70団体に増やすことに繋がった。また、八十八景の古地図や石柱名から作庭意図を読みといて課題を整理するとともに、「白鷗橋」「老ヶ峰」については景観を阻害している支障樹木や地割を見せる手入れを行い、視点場の景観を向上させた。</p>	A
70	旧岩崎邸庭園	B	<p>・向島百花園では、月見の会が中止となったものの、行事の一部を動画撮影して配信して多くの閲覧があるとともに、地元図書館と連携して月見文化に関する書籍の紹介やクイズを配布することで、若年層も含めた方々への伝統文化の普及啓発に努めた。また、顧客満足度調査で要望の多い水質・景観改善のため、ばっ気設備の更新、泥の除去、休園期間を利用した池干し等を行い、水質改善に努めた。</p>	B
71	向島百花園	A	<p>・旧古河庭園では、北区と連携して区運営の大河ドラマ館との双方による広報協力や成人式フォトスポット会場として提供を行うなど、北区の知名度向上に貢献した。また、休園期間を活用して、中島の護岸石の据直しや、大滝の漏水防止等、池景観の向上に努めた結果、庭園での報道中継の申込み増加に繋がった。</p>	A
72	清澄庭園	B	<p>・殿ヶ谷戸庭園では、庭園内の秋の風景の主要ポイントである萩のトンネルを非常に美しい形に作り替えるとともに、トンネルの先にある藤棚も、加工丸太ではなくヒノキの皮剥き丸太を使用することで、より庭園景観に調和するものとなった。また、藤の剪定も力をいれ、より花つきの良くなる技法を取り入れる等の工夫を行い、庭園景観の季節感と美しさの向上を十分に図ったことは評価に値する。</p>	B
73	旧古河庭園	A	<p><評価の特例> ・定量的な評価項目のうち利用者数目標は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響が多であり、適正な評価が困難であるため、「水準どおり」として評価している。</p>	A
74	殿ヶ谷戸庭園	B		B

グループ名	神代植物公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
75	神代植物公園	A	<p>・昆虫と植物の共生を伝えるため、地元の養蜂園と連携し、新たに植物多様性センターで養蜂をスタートしたことで、受粉の様子を頻繁に観察できるようになったほか、親子で養蜂家体験「ミツバチとともだちになろう！」の開催や植物公園オリジナルパッケージの生蜂蜜の販売に繋がった。また開園60周年記念式典は、調布市長をはじめとして地域の関係者を招待して開催し、10年前に埋設したタイムカプセルの開封や、医療従事者への敬意を表したメディカルティーツリーの植樹、無観客のためWebで配信したほか、特別企画展「神代植物公園～過去から現在、そして未来」も開催し、企画展の展示内容をHPからも見られるようにした。さらに、植物の育成として、絶滅危惧植物のツレサギソウは、工夫を凝らすことで前例のない播種・育成から株分け増殖に成功するとともに、シヨクダイオオコンニャクは、栽培記録の蓄積や他の植物園からの情報収集、栽培法の工夫により、世界でも稀な4回目の開花に成功した。</p> <p><評価の特例> ・定量的な評価項目のうち利用者数目標は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響が多大であり、適正な評価が困難であるため、「水準どおり」として評価している。</p>	A

グループ名	夢の島公園・夢の島熱帯植物館
指定管理者名	アメニス夢の島グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
76	夢の島公園	A	<p>・グループ全体において、個人情報書類等について、代表企業のパークアライアンス本部による保管状況の確認を毎年実施している点は評価できる。また、内閣サイバーセキュリティセンターのJISPという情報共有システムを活用し、セキュリティに関する情報を入手している点も評価に値する。</p> <p>・夢の島公園は、東京2020大会の競技会場となっており、園内の利用範囲等が目まぐるしく状況が変化中、組織委員会と調整を図りながら利用動線の変更を園内掲示板やHPで随時更新・周知し、利用者への安全性・利便性を確保した。また、東京2020大会の機運醸成に向けて夏花花壇を設置。設置場所に向けて組織委員会と粘り強く協議、調整を重ねた。花壇づくりにはコロナ禍での活動自粛の中であったボランティアとの協働作業も実行でき、魅力向上に貢献した。</p> <p>・夢の島熱帯植物館では、東京2020大会開催のためのセキュリティ強化（ロックダウン）による2カ月間の休館に際し、組織委員会と調整を重ね設備の不具合など不測の事態に備えたとともに、休館中に他施設との連携によるイベント等を開催し、アウトリーチ活動も活発に行った。また、動画配信「ゆめねつチャンネル」開設やオンラインでの「夜間開館」、「ガイドツアー」のライブ配信などに積極的に取組んだ。休館中の期間を活用し、新たな魅力の創出、発信に取組んだことは評価に値する。</p>	A
77	夢の島熱帯植物館	B	<p><評価の特例> ・定量的な評価項目のうち利用者数目標は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響が多大であり、適正な評価が困難であるため、「水準どおり」として評価している。(夢の島熱帯植物館)</p>	B

グループ名	潮風公園・台場公園
指定管理者名	東京臨海副都心グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評
78	潮風公園	B	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020大会整備工事に伴い長期間にわたり全面閉鎖してきたが、大会終了後の調整に尽力し、開園に向けての園内整備や各種調整に協力した。 ・潮風公園では、東京2020大会開催前の会場使用協定に基づく附属書作成の際や、大会開催前後の現場立会や頻繁に行われる組織委員会との調整会議等に協力した。 ・台場公園では、AR技術を活用し砲台跡に大砲の風景を再現することにより、史跡としての公園の魅力向上に取り組んだ。利用者にも好評であり、利用促進につながった。 	
79	台場公園	B		

グループ名	横網町公園
指定管理者名	公益財団法人東京都慰霊協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
80	横網町公園	A	<p>・復興記念館において、関東大震災100年のプレ企画として「関東大震災写真展」を開催し、公園の存在意義を広く普及啓発した。企画展「関東大震災と渋沢栄一」では、話題性のある人物にスポットを当てることで来館者の興味を引くよう工夫した。また、関東大震災の発生当時の様子や、震災記念堂（現在の名称：東京都慰霊堂）建設等の事業の状況を伝える貴重な資料「被服廠跡」は、旧字体のため一般向けには難解で、劣化も進んでいたため、平易な新字体に翻訳するとともに、データ化を行った。歴史的事実を後世に伝承する取組を進めていることは、評価に値する。</p> <p>・限られた予算の中で、確実に来園者を増加させ、アンケートの評価もほとんど全ての項目で上昇している。今後の震災100年等の事業に向けて地固めを期待したい。</p>	A

グループ名	東京臨海広域防災公園
指定管理者名	西武造園株式会社

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
81	東京臨海広域防災公園	B	<p>・スポーツ団体による園地の不適正利用に対し、利用ルールの再整備、利用指導の強化など適切な対応を行い、件数を減少させた点は高く評価できる。また、パネル展示やスタンプラリーなど、コロナ禍でも参加しやすいセルフイベントによる防災啓発イベントを複数実施した。『いのちを守る防災CAMP「おうちマップ編」』では、新型コロナウイルス感染症の流行により需要が高まっている家庭内防災の講座を行うなど、時勢に合わせたイベントを実施し、参加者の興味・関心を促進することができた。</p> <p>・ベンチ・野外卓の更新に係る経費の執行にあたり、計画策定の遅れや東京都との協議不足により適切な執行がなされなかった。再発防止を徹底されたい。</p>	B

グループ名	都立動物園
指定管理者名	公益財団法人東京動物園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
82	恩賜上野動物園	A	<p>・恩賜上野動物園では、域外保全活動に積極的に取り組み、ジャイアントパンダの双子の誕生や、ライチョウ、アビシニアコロブス等、多くの種の繁殖に成功したことは評価できる。また、積極的に近隣施設や地域団体と連携を図り、上野観光連盟との人気漫画とのコラボパネル展や、国立科学博物館及び東京国立博物館とのオンラインイベントなど様々な企画を行い、動物園の魅力向上に貢献した。さらに、新型コロナウイルス感染拡大対策として、5Gを活用した混雑マップの提供を開始し、安全安心な観覧環境を提供するための取組を推進した。</p> <p>・多摩動物公園では、域外保全活動に積極的に取り組み、外見では判断できないモグラ類の雌雄判別等によりオオアシトガリネズミの繁殖に成功したほか、コアラ、チーター、トキ、コウノトリ等、多くの種の希少種の繁殖に成功した。また、アジアゾウの室内環境改善の取組みや給餌方法の工夫、トレーニングの実施により、来園者に生き生きとした動物の姿を提供した。</p>	A
83	多摩動物公園	B	<p>・葛西臨海水族園では、コロナで中止となった夜間開園に代わるイベントとして「夜の水族園」をYouTubeでライブ配信し、700名以上が参加し、大きな反響があった。また、TwitterやInstagram、YouTubeなどのSNSやHPを活用して様々なテーマで多くの情報発信に取り組んだ。特にYouTubeでは113本の動画を配信するなど、広報活動・普及活動は高く評価できる。さらに、培ってきた知見や技術力によって国内2例目となるパシヨウカジキの展示に成功した。</p> <p>・井の頭自然文化園では、開園79周年企画として初の試みとなるライブ配信を行った。園長が園内を散策しながら園の歴史や動物解説を行う特別ガイド「ぶんかえんライブ!」は約500名の視聴者に園の魅力を伝えた。施設の魅力発信のため、新たな試みに挑戦し、効果を上げていることは評価に値する。</p>	B
84	葛西臨海水族園	A	<p>・恩賜上野動物園では、メールの誤送信により、個人メールアドレスの流出事故が発生した。また、カバの飼育中に飼育係が手指を咬まれ、腱断裂等全治2か月の重傷を負う事故が発生した。再発防止を徹底されたい。</p> <p>・多摩動物公園では、鳥の移動用枝の放置によるルリコンゴウインコの死亡や、検疫中のカヤネズミの脱走、不適切な重石の使用によるカワウソウ舎のガラス破損、ヤクシカの脱柵等、事故の未然防止への認識、注意不足による事故が散見された。また、ナラ枯れによる倒木が2件発生する等、ナラ枯れ被害が拡大した。さらに、管理車両の事故が6件発生した。再発防止を徹底されたい。</p> <p>・葛西臨海水族園では、ペンギン放飼場クラック・陥没事故に関して、ひび割れ等の兆候を認めながらも、都に改修要望をするにとどまり、具体的な劣化度の確認等を行うことなく、事故発生に至るまで修繕等の対応がなされなかった。再発防止を徹底されたい。</p>	A
85	井の頭自然文化園	B	<p><評価の特例></p> <p>・定量的な評価項目のうち利用者数目標は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響が多岐であり、適正な評価が困難であるため、「水準どおり」として評価している。</p>	B

グループ名	都立霊園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
86	青山霊園	B	<p>・グループ共通の取組事項として、都立霊園抽選会のYouTubeライブ配信は、昨年度のアンケート結果を反映し、抽選方法について説明動画を別途公開するなどの改善を加えて実施したことで、配信翌日の延べ閲覧者数は約3,600人（応募者の24%に相当）となり、都民のニーズに沿うことができた。また、お問い合わせの多いお墓の管理方法を動画にまとめ、お墓購入時の書類審査会場待ち時間での放映やHP上で公開するなど、コロナ禍における効果的な広報に取り組んだ。その他、染井霊園及び小平霊園では利用者満足度の各項目で評価が上がっており、評価に値する一方、谷中霊園では7項目中5項目で評価を下けているため、原因の究明を期待したい。</p>	B
87	谷中霊園	B	<p>・雑司ヶ谷霊園では、コロナ禍における墓参ニーズや慰霊の場を新たに創出し、収蔵施設のリモート墓参動画はYouTubeとTwitter合わせて3,120回の再生回数を獲得した。また、崇祖堂において「おもいでコンサート」を開催し、葬儀に参列できなかった方など向けに故人を偲ぶ機会を創出するなど、ニーズを的確に把握して質の高いサービスを提供した。</p> <p>・染井霊園では、都の再生事業への協力として、使用区画の位置及び面積が長年にわたり不明の状態にあった不適正墓所の是正を行い、貸付墓所の確保に寄与した。</p>	B
88	雑司ヶ谷霊園	A	<p>・八柱霊園では、新たに発足したボランティア団体「無縁塚を守る会」と協働。定期的に無縁塚の清掃、除草、弔い等を実施し、活動内容を広く周知し「血縁関係になくとも故人を弔う」という新しい考え方のきっかけを作った。</p>	A
89	染井霊園	A	<p>・多磨霊園では、住民や保育園、石材店との連携による「クリーンキャンペーン」や、ポイスカウトとの協働清掃活動、大規模地域防災訓練によって、地域と霊園の相互交流が活性化され連携が強固となっており、多磨霊園100周年事業に向け地域の一体感、気運の醸成を図っている。また、東京2020大会の自転車ロードレースのコースが近接していたことから、園内交通規制、警戒強化等を開幕まで実施し、競技の安全な開催に貢献するとともに、警察署長より協力に対し感謝状が授与された。</p>	A
90	八柱霊園	B	<p>・小平霊園では、自動芝刈り機による夜間作業を導入し、昼間作業がなくなることで墓参者へ静謐な空間を提供するとともに、芝生の効果的な維持管理が実現した。また、掃除道具をまとめて運搬できるキャリアカーの貸出を開始したことで、貸出用具を持ち運ぶのが困難な高齢者等の利便性向上や、遠方墓所へは所要時間30分かかることもある移動時の負担軽減を図った。</p> <p>・各霊園の申請書類取り纏めの際に、書類紛失事故や事故後報告の不備があったため、再発防止を徹底されたい。</p>	B
91	八王子霊園	A		A
92	多磨霊園	A		A
93	小平霊園	A		A

グループ名	瑞江葬儀所
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
94	瑞江葬儀所	A	<p>・新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方を積極的に受け入れた（都内死亡者の約3割にあたる年間730体）。また、通常の火葬への影響を最小限に留めるため、情報収集や他の火葬場との連携により、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方の火葬優先枠を状況に応じ増減するなど、柔軟な対応を行い、公営火葬場としての責務を十分果たしたことは大変評価できる。さらに、前年度作成したBCPを、業務や段階ごとに応じた内容にバージョンアップしたことで、計画に基づき業務を停滞させることなく遂行した。</p>	S